

図 1.16(2) 平均流 (2009年1月の平均)

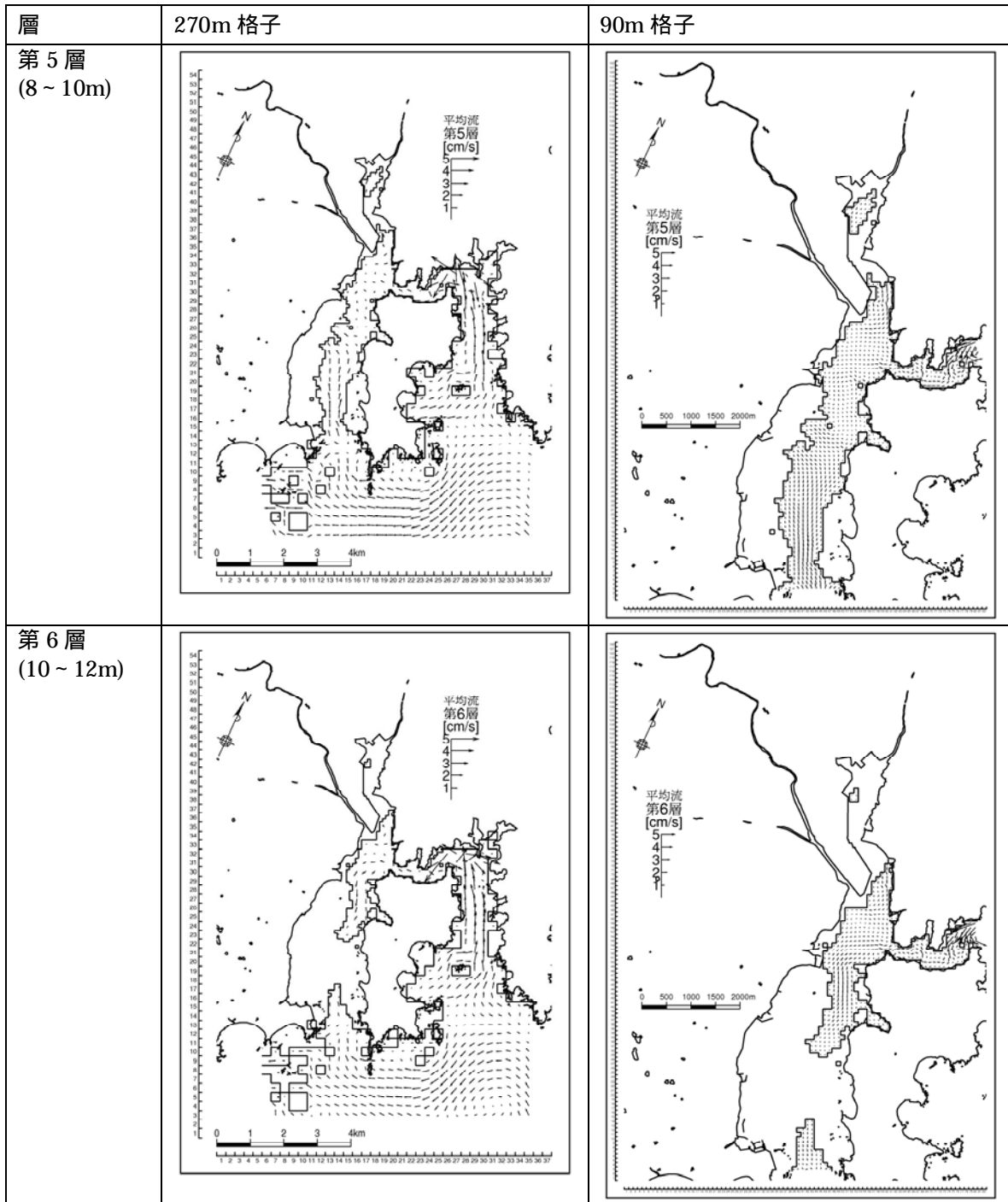


図 1.16(3) 平均流 (2009年1月の平均)

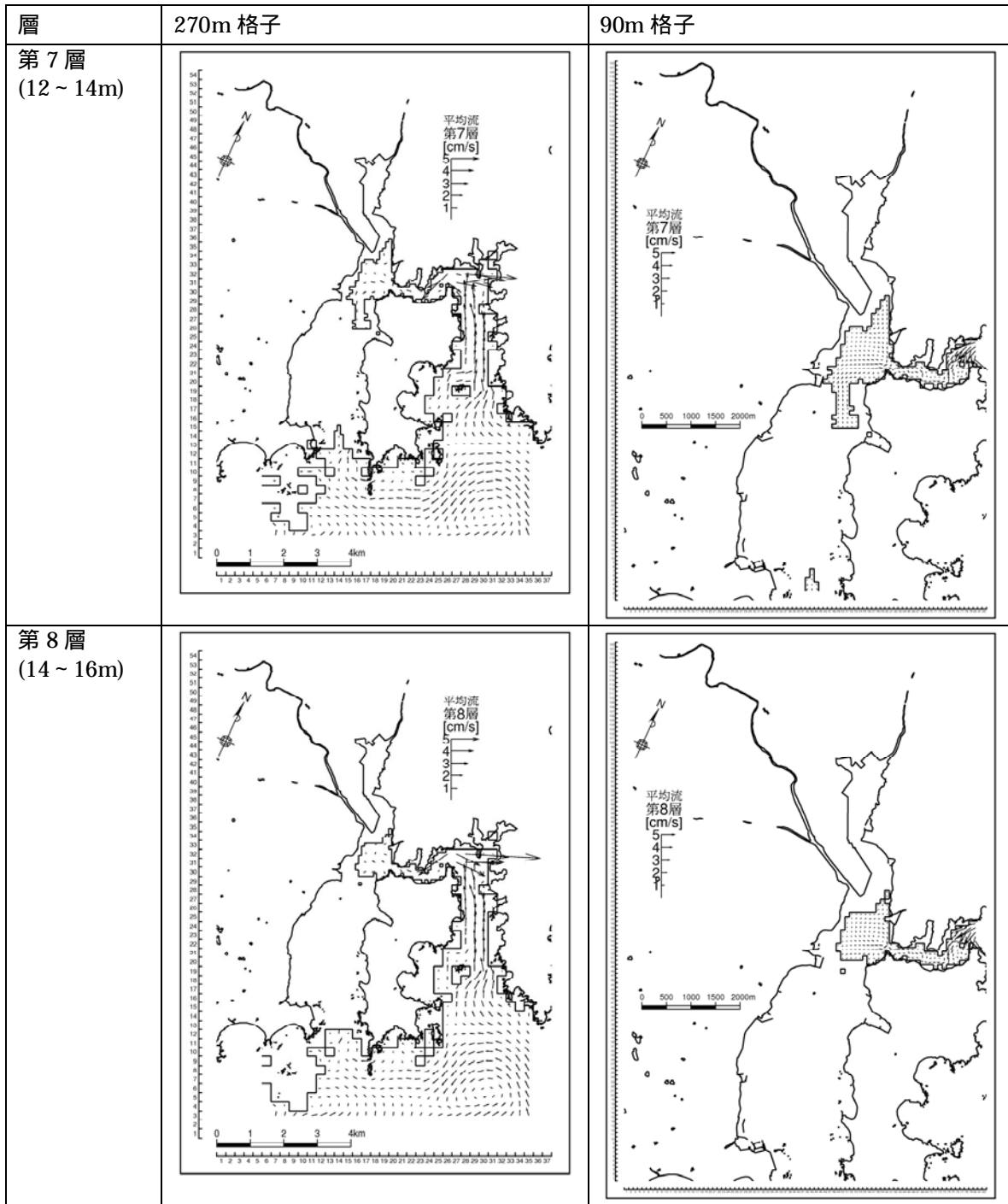


図 1.16(4) 平均流 (2009 年 1 月の平均)

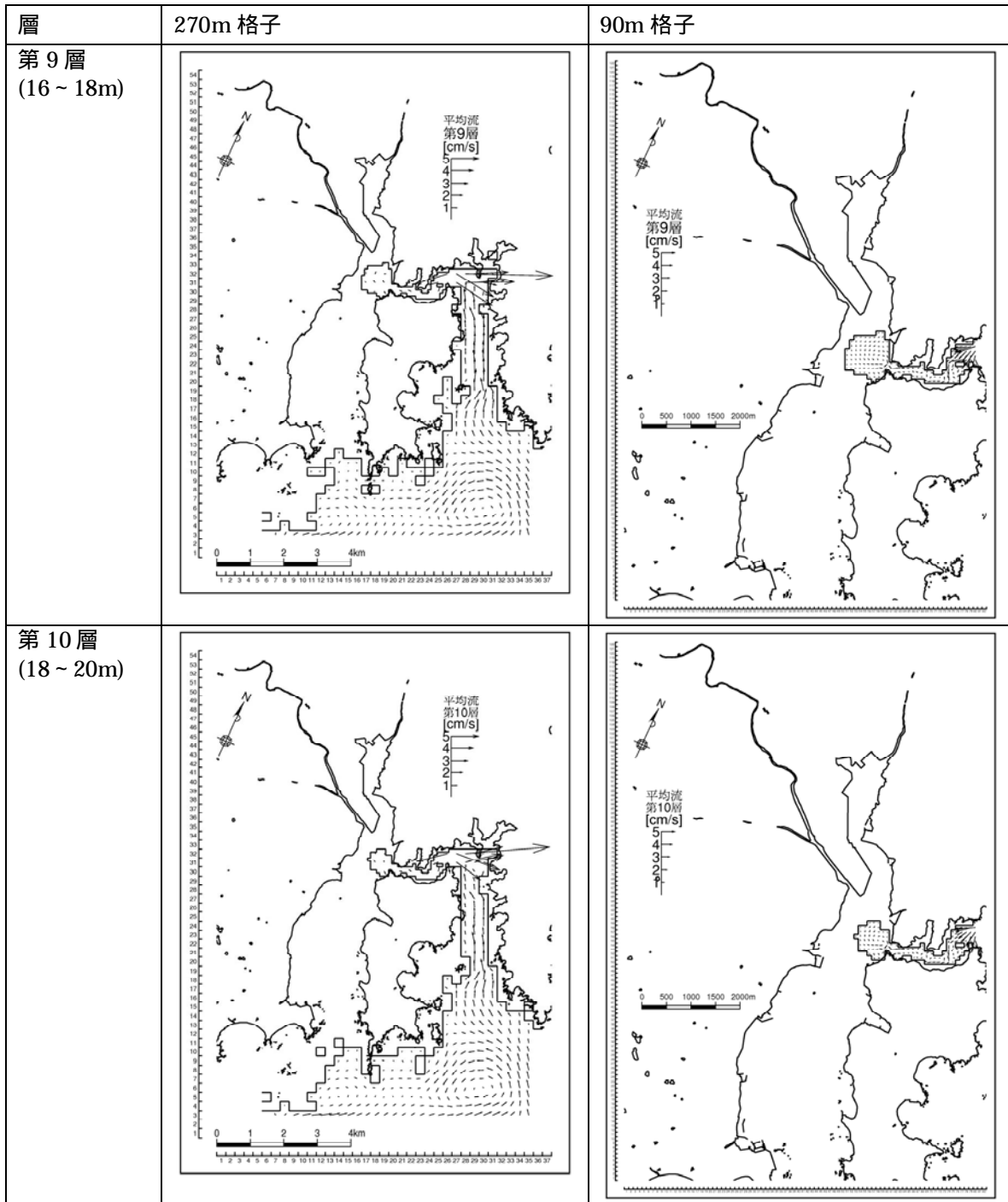


図 1.16(5) 平均流 (2009 年 1 月の平均)

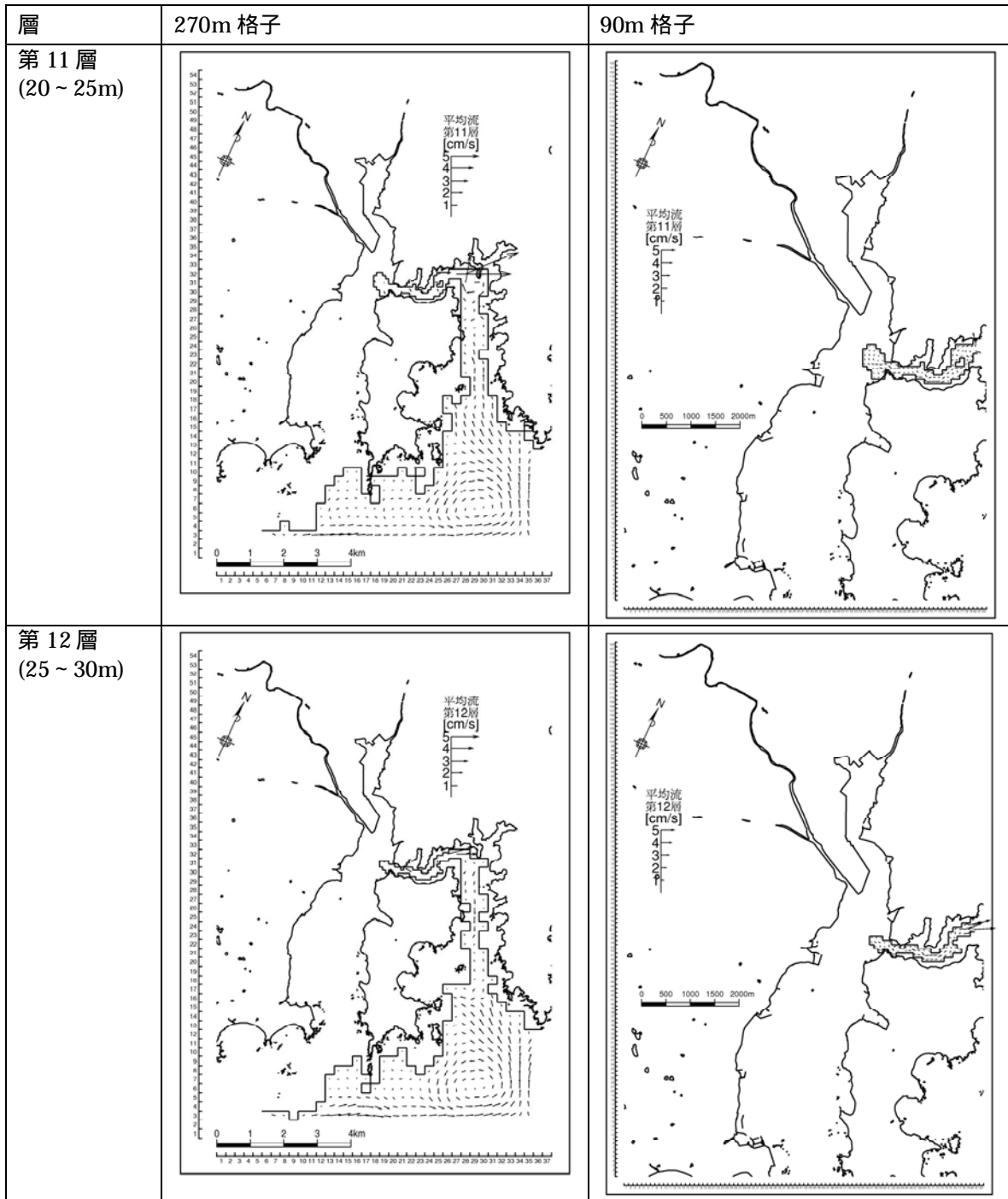


図 1.16(6) 平均流 (2009 年 1 月の平均)

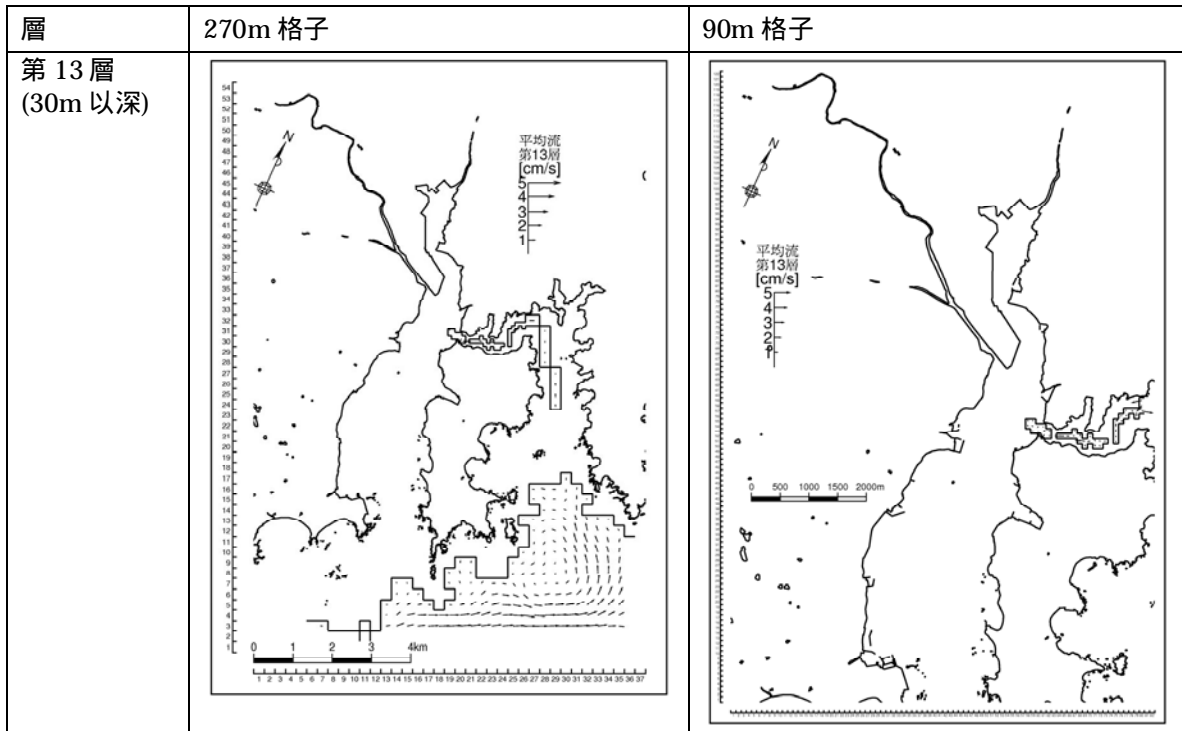


図 1.16(7) 平均流 (2009 年 1 月の平均)

3) 水温・塩分

水温・塩分の再現性については、図 1.17 に示す地点で宮城県気仙沼水産試験場が実施した水質調査結果を用いた。計算値と観測値の比較結果を図 1.18 に示す。

各地点の年間の水温・塩分の変動傾向をみると、計算値は春季から夏季にかけて成層し、秋季から冬季にかけて鉛直混合していく様子がみられており、観測値の傾向を良く表現していると考えられる。

一方で、Stn.2、Stn.3 および Stn.4 の 2008 年 6 月と 9 月の塩分をみると、とくに表層において、観測値と計算値に乖離がみられている。これらの時期については、水質調査が行われる以前に比較的降雨が集中している傾向がみられており、降雨に伴う河川流量の変動が計算条件では十分に表現されていない可能性が考えられる。

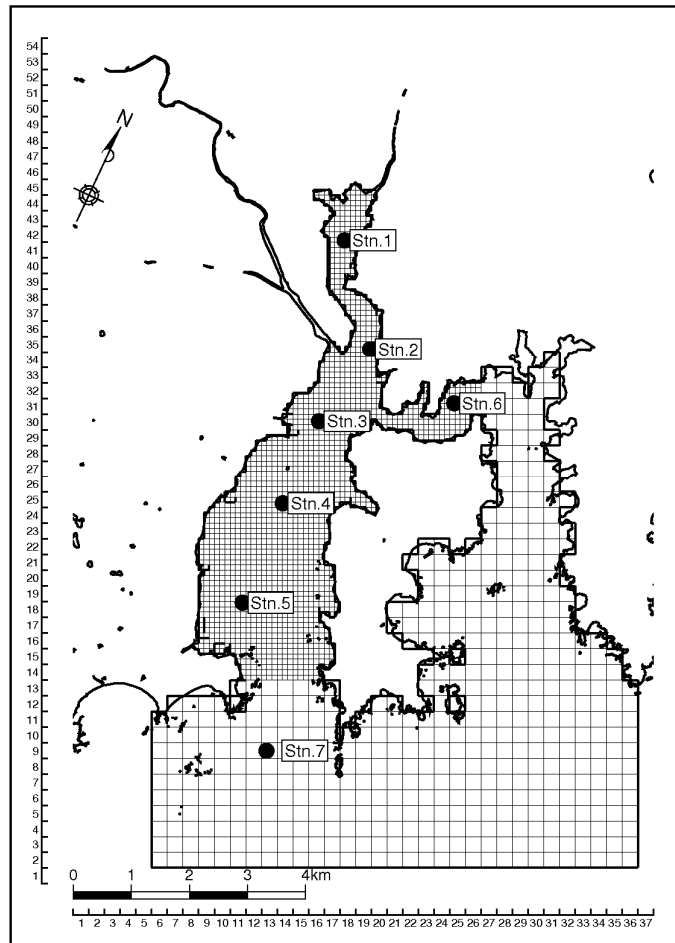


図 1.17 水質調査位置